

地域猫活動のすすめ

（地域猫活動のガイドライン）

～地域の力で野良猫被害を減らしましょう～



下関市

地域猫活動について

下関市には、市民の方から猫に関する苦情がたくさん寄せられています。なかでも、飼い主のいない猫にエサを与える人がいるので、繁殖を繰り返して猫が増えてしまい、家の敷地内にふん尿をされ悪臭がする、ノミダニなどの害虫が発生する、発情やケンカの鳴き声がうるさいなどといった、飼い主のいない猫に関する苦情が最も多く、エサを与える人と住民がトラブルになっているケースもあります。

そこで本市では、飼い主のいない猫に起因する諸問題の解決策として、猫のことが「好きな人」と「嫌いな人」のいずれにとっても大変有意義な活動である「地域猫活動」を促進しています。

地域猫とは？

地域の理解と協力を得て、地域住民の認知と合意が得られている、特定の飼い主のいない猫。その地域に合った方法で、飼育管理者を明確にし、飼育する対象の猫を把握するとともに、フードやふん尿の管理、不妊去勢手術の徹底、周辺美化など地域のルールに基づいて適切に飼育管理し、これ以上数を増やさず、一代限りの生を全うさせる猫を指します。

(環境省：住宅密集地における犬猫の適正飼養ガイドラインより)

地域猫活動とは？

地域住民と飼い主のいない猫との共生をめざし、不妊去勢手術を行ったり、新しい飼い主を探して飼い猫にしていくことで、将来的に飼い主のいない猫をなくしていくことを目的としています。ただし、実際に数を減らしていくためには、複数年の時間を要しますので、当面は、これ以上猫を増やさない、餌やりによる迷惑を防止するなどを目的としています。地域猫活動は、「猫」の問題ではなく「地域の環境問題」としてとらえ、地域計画として考えていく必要があります。

(環境省：住宅密集地における犬猫の適正飼養ガイドラインより)

地域猫活動の効果

地域猫活動では、地域で定めた場所でエサや水を与え、ふん尿の処理や周辺の清掃などを協力して行うことで、生活環境の保全を図ることができます。

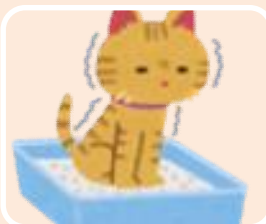
また、猫の不妊去勢手術を行うことで、繁殖を防ぎ、尿の悪臭を軽減したり、多くの場合、発情期の行動を消失又は軽減することができます。

ただ単に飼い主のいない猫を排除するのではなく、飼い主のいない猫を地域の人たちが認知し、良好な環境を目指す地域猫活動を実施することで、猫の世話が適切になされ、頭数が減少し、地域の環境問題の解決につながります。



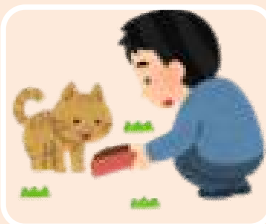
不妊去勢手術の効果

- 子猫が生まれないのでこれ以上猫の数が増えない
- 寿命により少しずつ猫の数が減少する
- スプレー行動や発情期の鳴き声などが軽減される
- 尿の臭いが薄くなり悪臭が軽減される



ふん尿の管理の効果

- 決められた場所でトイレをするようしつけることでふん尿被害が軽減される
- ふんのごみの清掃を同時に行うことで地域の美化に貢献



エサ場の固定の効果

- 猫がごみをあさることがなくなる
- ゴキブリやハエなどの衛生害虫の発生が軽減される

地域猫活動の役割

飼い主のいない猫に関わるトラブルを、地域の環境問題としてとらえ、解決していくためには、市民、地域、行政機関がそれぞれの役割のもと、協働で取り組むことが重要です。

猫にエサを与えている人

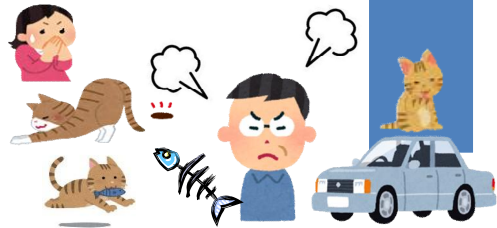
「可哀想だから」「可愛いから」といって無責任なエサやりを行うと、「繁殖を繰り返して飼い主のいない猫がたくさん増える」「ふん尿の悪臭やノミダニが発生するなどして周りの生活環境が悪化する」といった問題が起こります。地域の人たちに理解を得た地域猫活動を目指しましょう。



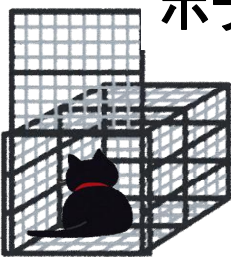
地域住民

猫に困っている人

飼い主のいない猫を排除しようとするだけでなく、猫が命のあるものであることを尊重いただき、地域猫へのご理解と、飼い主のいない猫を減らしていく活動へのご協力をお願いいたします。



ボランティア



行政

市役所

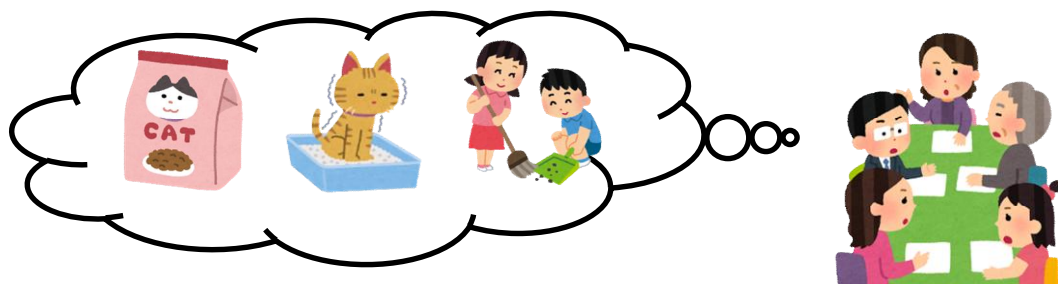


動物病院



(1) 地域の役割(自治会、住民グループなど)

- ・地域でよく話し合い、地域のトラブルの状況を把握する
- ・地域猫の趣旨を十分に理解し、地域住民の理解と同意を得られるようにする
- ・地域猫活動が周辺住民に受け入れられるように周知を図る
- ・地域でルールや担当する人を決めて、地域全体の問題としてできることに協力する(エサ場の提供・トイレ場所の設置・資金の援助等)



(2) 行政の役割

- ・飼い主のいない猫で困っている地域等に対し、地域猫活動の内容についてご理解いただくための住民説明会を開催する
- ・不妊去勢手術実施に向けた支援を行う
- ・地域猫活動を知ってもらうための啓発資料を作成し提供する

(3) ボランティアの役割

- ・知識と経験を活かし、地域住民の相談を受けアドバイスを行う
- ・必要に応じて地域猫活動にも参入する



(4) 動物病院の役割

- ・不妊去勢手術を実施する
- ・耳カット処置をする



地域猫活動の手順

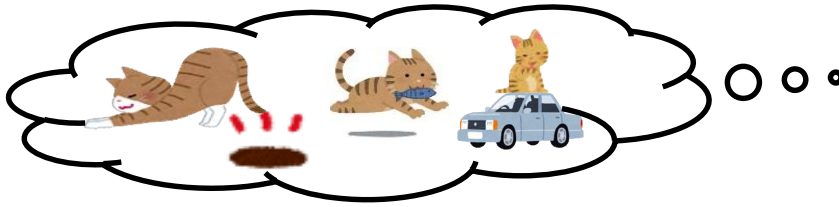
～ステップ1～地域住民の理解を得る～

地域猫活動を実施するためには、地域住民の理解が必要です。

地域で話し合いを行う際は、実際に活動を行う人、自治会、猫が苦手な方、猫の管理に反対な方も含めてください。

事前に各関係者が集まり現状を確認した上で、活動を行うかを検討し、意思の統一を確認した上で活動を始めることが必要です。

市も会合に参加して、説明を行うなどのお手伝いをします。



～ステップ2～地域にいる猫の調査～

管理する猫を決めるため猫の情報を収集する。

- 屋外にいる飼い猫や飼い主のいない猫の数や分布
- 問題の発生場所や内容
- エサ場の位置
- ふんが多い場所など



△ 飼い猫には首輪等の目印をつける、室内飼養を徹底するなど、飼い主の協力を得ることが重要です △



～ステップ3～活動のルールづくり～

活動のルールは「猫が嫌いな人」「猫で困っている人」にも配慮し、地域の実情に応じたものを作成しましょう。

地域内で協力してもらえる人たちが、無理なく、継続して活動できるような役割分担、スケジュールなどの体制を考えます。また、広報やパトロール等についてもあらかじめ考えましょう。

- 不妊去勢手術の実施方法 ●エサやりの場所、時間
- トイレの設置場所 ●周辺の清掃方法
- 活動実績の広報 ●パトロール など



～ステップ4～資金調達方法の検討～

地域猫活動には費用がかかります。活動に要する資金の調達方法を検討しましょう。

- 不妊去勢手術の費用
- エサ代
- 猫砂等のトイレの費用など



～ステップ5～活動するメンバー決め～

活動するメンバーを決めて役割分担を考えましょう。

メンバーは、活動地域の自治会又は学区内に居住している方で、地域猫が10頭未満の場合は2名以上、10頭以上の場合は3名以上必要です。

- エサやり、片付け
- トイレ等のふん尿の処理
- 不妊去勢手術

～ステップ6～回覧等による周知～

地域住民へ回覧等により周知をしましょう。

- 協力者の募集
- 飼い主のいない猫にエサを与えている方への注意
- 猫を飼っている方への注意
- 活動のルール



～ステップ7～地域猫活動団体の届出～

下関市動物愛護管理センターに書類を提出しましょう。

- (1) 地域猫活動届出書(様式第1号)
- (2) 管理する飼い主のいない猫の一覧(様式第2号)
- (3) 活動者が4人以上いる場合の名簿(様式第3号)
- (4) 地域猫活動承諾書(様式第4号)
- (5) 付近の見取図(様式第5号)
- (6) 餌場・トイレの設置場所等の図面(様式第6号)

※必要に応じて市も書類作成のお手伝いをします。

～ステップ8～届出の受理～

下関市動物愛護管理センターが書類審査及び現地確認を行います。

- 適切な給餌給水及びふん尿の管理が行われていること
- 自治会の会合や回覧で周知されており、地域住民の理解、自治会等の承諾が得られていること
- 猫の生息情報の把握がされていること など

～ステップ9～エサの管理～

エサ場を固定し、適正にエサを与えましょう。

△エサの与え方の注意点△

- 猫が多い地域では、エサを与える場所を分散させる
- エサを与える場所は、迷惑のかからない安全な場所を選ぶ
→周辺の方の了解を得る、土地の所有者や管理者の了承を得る
- 同じ場所で同じ時間に与える
→1日1回でも大丈夫です。水も与えてください。
- 猫が食べ終わったら、残りのエサを片付けてきれいにする
- ゴキブリやハエなどの衛生害虫や悪臭の原因となるため、置きエサは絶対にしない
- 「この地域の猫は、適正にエサを与えていますので、無断でエサをやらないでください。」という看板を立てる
- 専用の猫用フードを与える
→残飯はごみ漁りの原因になる



～ステップ10～ふん尿の管理～

猫用トイレ等を設置し、そこで排泄するように仕向けましょう。

△猫用トイレの作り方の注意点△

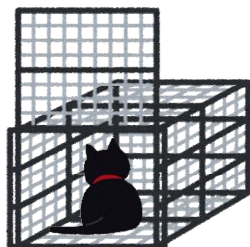
- エサを与える場所の近くに設置する
→土地の所有者や管理者の了承を得る
- なるべく雨のかからない乾いた場所を選ぶ(トイレに屋根をつける等)
- 砂や土を少し盛り上げるようにする
- 板などを立てかけて、周りから見えないようにする
- トイレは清潔に保ち、こまめにトイレの掃除をする
- トイレ以外に排泄されたふんも速やかに清掃し、環境保全に努める



～ステップ11～不妊去勢手術(TNR)～

地域猫には、必ず不妊去勢手術を実施しましょう。

Trap
捕獲して

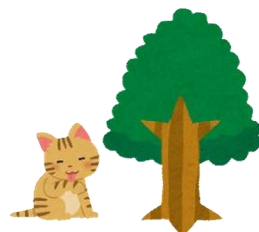


Neuter
不妊去勢手術をしてV字カット



V字カット

Return
元の場所に戻る



飼い主のいない猫を捕獲(Trap)し、動物病院で不妊去勢手術(Neuter)と手術済みの目印である耳カットを施した後、元の場所に戻し(Return)、一代限りの命を見守ることです。

- (1) 動物病院へ相談・予約
- (2) 捕獲(「捕獲器で猫を捕獲する方法(9ページ)」を参考)
- (3) 動物病院への運搬
- (4) 動物病院での手術+V字カット処置
- (5) 動物病院から猫の受け取り
- (6) 猫を元の場所に戻す
- (7) 健康管理

予約



～ステップ12～エサやりさんへの注意～

地域猫以外にはエサを与えないようにしましょう。

～ステップ13～譲渡先の確保～

飼い主のいない猫は、病気や交通事故の危険などに常にさらされながら、過酷な環境で生活しています。

住民と猫のためにも、猫の譲渡先を探しましょう。

～ステップ14～活動状況の記録と報告～

地域猫の状況、活動経過、苦情の対応状況等を活動記録(様式第7号)に記録しましょう。

毎年度末に地域猫活動報告書(様式第8号)を提出してください。



捕獲器で猫を捕獲する方法

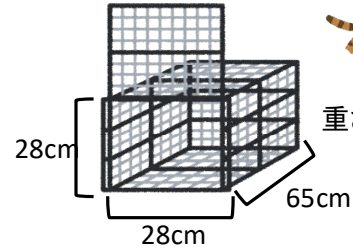
【飼い主のいない猫を安全に捕獲する方法】

確実性の低い方法で捕獲を試みてはいけません。素手で捕まえようとしたりすると、飼い主がいない猫は怒りや興奮によって暴れ出し、猫だけではなく人間自身も怪我を負うことになってしまいます。また、一度捕獲に失敗すると猫も警戒して捕獲に時間がかかってしまいます。人にとっても猫にとっても安全な捕獲器の利用をおすすめします。



【本市が貸出す捕獲器】

猫が奥の板を踏むと自動で扉が閉まる捕獲器です。



重さ: 約3.6kg

1 捕獲をする前の準備

(1) 猫を一時飼育する場所の確保

動物病院に連れて行くまでの間、一時的に猫を飼育する場所が必要です。捕獲された猫は恐怖でいっぱいのため、お漏らしすることもあります。ペットシーツや多めの布を準備しておきましょう。

〈場所選びのポイント〉

- 家で飼育している猫と接触できない場所(病気の感染予防のため)
- 人の出入りの少ない静かな場所
- 寒さ対策、暑さ対策ができる場所

(2) 動物病院に連絡する

- ・動物病院に不妊去勢手術ができる日を確認する。
 - ・動物病院に猫を渡すときの状態を確認する。
- 猫を捕獲器に入れた状態で渡して大丈夫か確認が必要。
(事前にネットに入れなければ手術ができない病院もあるため。)



2 猫の捕獲

(1) 捕獲を試みる前にまずは数日間決まった時間に決まった場所でエサを与える

野良猫はエサを目的にその周辺に留まるようになるはずです。その後、エサを捕獲器に入れておびき寄せることができます。

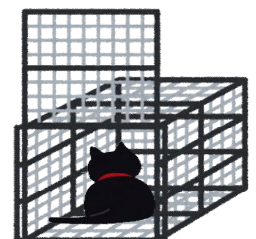
(2) 捕獲を試みる前日はエサを与えないようにする

おなかをすかせている方が捕獲器に仕掛けたエサに食いつきやすくなります。



(3) 捕獲器をセットする

- ①扉を開ける。
- ②エサを捕獲器の踏み板より更に奥に置く。
- ③踏み板が隠れるように、捕獲器の底に新聞紙1枚を敷く。
※金網に警戒して捕獲器に入らない猫がいるため。
- ④新聞紙が風で動かないように、テープで固定する。
- ⑤入り口付近にエサを2か所ほど置く。
- ⑥警戒心の強い猫の場合は、捕獲器をダンボール・タオル等で覆う。



〈捕獲に使用するエサ〉

エサ入れやお皿は使用せず、直接捕獲器にエサを置きます。

- からあげ
- かつおぶしで作った団子
- 猫用缶詰 など

※水分が多いエサは、猫が捕獲器内で暴れたときに、猫の体がベトベトになることがあります。



(4) 捕獲器を定期的にチェックする

捕獲器の状態を定期的にチェックして、目的の猫が入ったかどうか確認しましょう。

3 猫が捕獲できたら

(1) 捕獲器を黒い布などで覆う

捕獲器に入った猫はパニック状態になり暴れます。すぐに捕獲器を布などで覆い猫を落ち着かせます。

(2) 一時飼育場所に猫を移動する

すぐに動物病院に連れて行けない場合は、予め用意しておいた一時飼育場所に移動させましょう。この際、猫が興奮して暴れて人間が怪我をすることがあるため、手袋、長靴、長袖の洋服を着用しましょう。

猫はそのまま捕獲器の中に入れておいてください。捕獲器から出したり、キャリーバックに移そうとしてはいけません。



(3) 一時飼育場所で飼育

人に馴れていない猫は、逃げると再び捕獲することが難しいため、一晩くらいならそのまま捕獲器の中に入れておいた方がよいです。

(4) 動物病院に連れて行く

予約時に指示を受けた方法で動物病院へ運搬して、不妊去勢手術を受けさせましょう。手術時に耳に手術済のしるしであるV字カットをしてもらいましょう。



4 不妊去勢手術が終わったら

(1) ふん尿の管理をしましょう。

自宅敷地内や地域住民の理解が得られる場所にコンテナやプランターを利用した砂場を作るなどして、そこでふん尿をするようにしつけましょう。また、近隣でふん尿した場合には、進んで掃除を行いましょう。



(2) エサの管理をしましょう。

エサを置いたままにすると、カラスやハトがやってきたり、ハエやゴキブリの発生や悪臭の原因になります。エサやり場は近隣住民に迷惑のかからない場所に固定し、時間を決めて与えましょう。残ったエサは片付けましょう。



(3) 新しい飼い主を探しましょう。

飼い主のいない猫は、病気や交通事故の危険などに常にさらされながら、過酷な環境で生活しています。猫のことを考えるのであれば、新しい飼い主を探して、野良猫がいなくなるようにしましょう。



飼い主のいない猫による被害を減らすために

～当自治会は飼い主のいない猫たちによる被害を減らすために活動しています～

《はじめに》

飼い主のいない猫(以下「野良猫」という。)たちは、あちこちに「ふん尿をする、ごみステーションを荒らす、車を傷つけるなどの被害」を引き起こしています。

このような被害は、野良猫が増えすぎたことが原因です。

そこで、当自治会では、野良猫に不妊去勢手術(以下「手術」という。)を行って、野良猫の数を減らし、野良猫による被害を減らすための取り組みである「地域猫活動」を行っています。

《主な活動内容》

①野良猫に不妊去勢手術を行っています。

1頭のメス猫は、1年間に10頭以上の子猫を産みます。そのため、新たな子猫が次々と産まれることで、野良猫による被害は拡大していきます。

そこで、新たな子猫が産まれないように、手術を行うことが必要になります。

野良猫の寿命は4～5年であるため、子猫が減れば、野良猫の数を減らすことができます。

仮に今いる野良猫を排除しても、他所から別の野良猫が流入するため、手術した野良猫にテリトリーをさせることで、他所からの流入を防ぐことができます。

手術済みの猫は、発情期の鳴き声やケンカがなくなり、尿のにおいも薄くなります。

現在、近所では 頭の野良猫が確認されています。

手術が終わった野良猫は、目印のために耳の先を小さくV字にカットして、元の場所に戻しています。



②野良猫に時間を決めてエサを与えています。

飢えた野良猫は、ごみステーションを荒らします。また、手術をするためには、野良猫を一時的に保護する必要があります。

そこで、ごみステーション荒らしを防いだり、一時的に保護するためにエサを与えています。

③野良猫が食べ残したエサやふんを片付けています。

食べ残したエサの片付けを行っています。

また、ふん尿被害対策のためのトイレを設置して、ご近所の方にご迷惑をかけないように心がけています。

《皆様へのお願い》

トラブル防止のために、次のことにご協力をお願いいたします。

- 飼い猫は、不妊去勢手術をして室内で飼ってください。どうしても外に出ってしまう飼い猫には、必ず首輪を付けてください。
- すでに手術済の野良猫がいる場合は、お知らせください。
- この地域の猫は、当自治会で管理しています。無責任なエサやりは、おやめください。

野良猫による被害はすぐには解消しませんが、この活動を続けていけば必ず被害は減ります。それまでの間、ご迷惑をお掛けしますが、どうか猫たちを見守ってください。

☆地域猫活動として、エサやり・猫トイレ設置・清掃に協力していただける方は、ご連絡ください。

下関市における地域猫活動の事例について

1 地域猫活動を行っている地域の環境 住宅地

2 地域猫活動に取り組むまでの経緯

飼い主のいない猫による次のような近隣への被害が発生

- ①ふん尿による悪臭
- ②ごみステーション荒らし
- ③庭荒らし
- ④住居侵入
- ④エサを与えている住民同士のトラブル



自治会長の英断により、これらの被害を解決するために、飼い主のいない猫との共生事業(以下「地域猫活動」)に取り組むことを決定

3 地域猫活動の主な内容

- ①地域猫へのエサやり
- ②ふんの始末等の管理体制を明確化(話し合いによるルールづくり)
- ③不妊去勢手術の推進(市からの助成金の活用、自治会からの支援、動物病院の協力)

4 令和2年度(活動開始時)からの実績

- ①活動メンバー 4名(当初は5名)
- ②不妊去勢手術の実績 29頭
- ③死亡猫等頭数 6頭(見かけない猫の数を含む)

5 地域猫活動を行う際のポイント

町民(自治会員)の理解を得るため、自治会総会での説明や自治会だよりを通じて、活動状況を報告している(年1回以上)

地域猫活動を通しての思い(感想)

- ・近隣からの苦情はゼロにならない(一部で今だにあり)
- ・不妊去勢手術のための捕獲に苦労した(猫との知恵比べ)
- ・捕獲檻からの脱走2回あった(再捕獲に苦労した)
- ・他地域からの流入猫が絶えない(当初見込みより手術数増)
- ・手術費用の確保が難しい(自治会からの支援金(5年間のみ)を充当)
- ・活動メンバー間の連携が難しいこともあった
(手術予定の雌猫が出産し、手術時期が遅れた)
- ・病気猫の治療代や死亡猫の火葬代の捻出が課題
- ・地域猫間でのトラブルあり(母猫が実の子猫のエサを奪う、ネグレクト等)
- ・同じ自治会内でも他地区へ展開ができない(リーダー役がいらない)